

# アブバとヤーバ

## 映画レビュー

この映画は2011年7月までに、東京、大阪、福岡など全国10か所で上映されています。

●映画関係者、アフリカ研究者の方々からご好評をいただいています。

(パンフレットより抜粋)

東京のおばあさんは、スーダンの人びとがコウリヤンを主食としており、昔の記憶がよみがえると同時に、空間を超えた親近感をスーダンに抱いた。そして、スーダンから送られたコウリヤンを手に取り、自分で料理するのである。(中略)これこそ、「国際理解」のモデルではないだろうか。あるいは、おおげさに言えば、スーダン人と日本人の連帯の表明の場ではなかっただろうか。

栗本英世 (大阪大学大学院人間科学研究科教授)

この曲をバックに、彼の地、此の地のおばあさん、おじいさんによる慰霊の光景が巧みにつながれた一連の場面は、この作品が残された者たちの物語だけでなく、逝ってしまった者たちへの挽歌、去っていった者たちへの哀歌でもあることを、静かに伝えているようだ。とちぎあきら (東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員)

映画を観終わって感じることはただ一つ。

私たちはこんなにも離れていながら「近く」、こんなにも近くにいなながら「遠い」、と。船田クラセンさやか (東京外国語大学准教授)

いったいこの四カ所の話がどうつながるのか、イニヤリトゥ監督作品のようにバラバラのピースがいつかぴたっと嵌るような展開になっていくのかと訝しくも期待を込め始めた頃、思いがけない「糸」が見えてくる。吟遊旅人さん Blog より)

●上映会にお越しくださった方々からご感想をいただきました。

ころっと死ななくても良い〜同感! (60代女性)

「時間が(家畜を)食べてしまった」という言葉が印象的でした。(20代女性)

途中で、スーダンなのか日本なのか、わからなくなるような、どちらでも関係ないような感覚で強く生きる人たちのストーリーにひきこまれていました。(20代男性)

おばあちゃんに会いたくなりました。

一時帰国する度に、「会いたかったよ。元気だった?」と聞いてくれるおばあちゃん。「帰る時にこれを持って帰ってね」と言いながらしわだらけの一万ルピア札と畑からとった果物をくれるおばあちゃん。いつもありがとう、と感謝の気持ちを伝えたい。そして、彼女の小さな身体を強く抱きしめたい。(インドネシア人女性のブログより)



大きな木陰ができるから。それにこのマンゴはお金にもなる。



「子供なんて大嫌いって言って…」遺言にはアフリカの子供のために遺産を寄付すると書かれていた。



娘が誰かにやろうと思ってよ、持ってたてしよねえから



お日様があそこに来たらひと休みして・・・



## 「アブバとヤーバ」 2009年制作

製作・監督 大宮直明 Omiya Naoaki

千葉県出身 1961年生まれ。テレビディレクター、(独)国際協力機構職員を経て、フリーの映像作家。主な作品:「尾形美樹の方法と夢」(2008)、「おかげら」(2008)、「カシ ナマ ジュパン」(2010) 他

音楽 唄種 「旅人」 「endless letter」

オリジナル・ラスコビ 「CARE FOR THE CARERS」

販売元 エクリプス 289-2613 千葉県旭市後草 2214-D

公式ブログ <http://abubayaaba.blog42.fc2.com/>



約96min. カラー 16:9 (一部4:3) DOLBY NTSC 字幕:日本語/英語 Region: All 不許複製

